

産業廃棄物処理業における高温・低温物との接触災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
2	16~17	当社工場作業所内において、オペレーターはパワーショベルを使って収集ごみの整理処理中、突然同重機エンジンがオーバーヒートにより異音と共に停止してしまっ た。このため停止後、約30分程度経ったところで重機補助作業員はラジエーターに 水の補給を考えながら、ラジエーターの蓋に触った途端に上記が噴き出て両手甲部 に蒸気があたり火傷を負ったものである。	41	10 ～ 29
3	11~12	車両系建設機械油圧ショベル（重機）のクーラント液（冷却液）を補充する際、ラ ジエーターが冷える前にフタを開けてしまい、沸騰した液が飛び出し、手の甲にふれ て火傷を負った。	50	10 ～ 29
7	16～ 17	海岸で、船から排出される廃油を船底にホースを下ろし抜き取る作業を行った。作 業終了後に車に使用済のホースを巻いたあと、汗で濡れた作業服を着替えようとし たが、既に全身に力が入らず、こわばりと震えが来たため、一緒に作業をしていた 作業員が救急車の手配をし、病院に搬送され、熱中症と診断された。	49	30 ～ 49
10	9～ 10	スクラップヤードにおいてクレーンブーム切断時、内部に油圧シリンダ（ジャッ キ）が出て、油圧シリンダをパイプと間違えて切断した時、内部に油が残っていた のを知らずに切断したため油に火がついて顔に当たり火傷した。	41	1 ～ 9
12	17~18	会社内の作業スペースでドラム缶の切断作業中、ドラム缶の蓋を開けてガス抜き 後、ドラム缶を切断しようとプラズマ切断機のトーチスイッチを入れたとき、ドラ ム缶の蓋の穴から熱風が出てきた。	48	1 ～ 9

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html